

管内の一酪農場におけるネオスポラ症の発生と対策：岡山県岡山家保 宇高成美

令和 4 年 8～10 月 にか け、管内の酪農場（つなぎ牛舎）で流産が 4 頭続発。病性鑑定で 1/4 頭がネオスポラ症と診断。翌年 2 月に同居牛の抗体検査を行い 6/48 頭の陽性を確認。陽性牛は牛舎内に点在し、3/6 頭は同一母牛由来の系統で垂直感染の可能性も疑われた。2/6 頭は、令和 3 又は 4 年保存血清が陰性、以降の移動歴はなく、農場内で感染したと推察。1/6 頭は、令和元年に陰性で令和 3 年に陽転していたが、この間に県外預託歴があり、感染経緯は不明。一方、その他の県外預託牛及び県外導入牛は、着地時点で抗体陰性であり、県外で感染した可能性は低いと推察。垂直感染対策として陽性牛産子の後継牛とする場合に抗体検査を実施。水平感染対策として後産の適正処理、（特に飼料の汚染防止を目的とした）作業靴の洗浄・消毒の徹底、野生動物の侵入防止対策等飼養衛生管理基準の遵守について指導。以降、本症による異常産の発生を認めず。